

施策評価シート

施策等名称	学校教育の充実	体系番号	0201010103
		主管課	学校教育課

1 施策基本情報

現状と課題	施設老朽化への対応 使える英語習得のための仕組みの構築 ICT教育推進のための設備等の整備 地域と一体となった学校運営 教職員業務改善(多忙化解消) 子どもたちの発達の課題への対応 等
めざす将来像 (あるべき姿、基本的な考え方)	子どもたちの確かな学力、豊かな心及び健やかな身体を育むため、幼保小連携教育に引き続き小中一貫教育を推進する中で、学校、家庭及び地域が一体となったコミュニティスクールを中核とした学校運営に取り組みます。また、子どもたちや地域のために安全安心な教育環境の整備に努めます。

施策指標	指標名称	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	
				2027年度目標値	2027年度目標値
①	児童生徒の学校に対する満足度	学校生活に満足している児童生徒数/全児童生徒数(%)	87.00	95.00	95.00
				95.00	95.00
②	教職員の月平均時間外勤務時間の減	教職員の月平均時間外勤務時間(時間)	57.03	45.00	45.00
				45.00	45.00
③	学校トイレの洋式化率の増	第一次茅野市小中学校管理計画に基づく学校トイレの洋式化率(%)	36.00	50.00	50.00
				50.00	50.00

施策の柱1	名称	確かなまなぶ力が生まれ、安心して教育が受けられる学校づくり	主管課	学校教育課				
	詳細	「生きる力」を育むことを目指し、思考力、判断力、表現力などの確かな学力を育む教育、豊かな心や健やかな身体を育む教育を進めます。読書・図書館教育を全ての教育活動の基盤とし、縄文科教育、心の教育、外国語活動・英語教育、ICT教育、食育等の茅野市教育の特色を活かし、子どもたちの発達の課題に基づき、小中学校で共通の授業観に立った学びを通じ小中一貫教育を推進します。						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	児童生徒の学校に対する満足度	学校生活に満足している児童生徒数/全児童生徒数(%)	87.00	95.00	1	教育委員会運営事業	実施
					95.00	2	小中一貫教育推進事業	実施
	2	教職員の月平均時間外勤務時間の減	教職員の月平均時間外勤務時間(時間)	57.03	45.00	3	コミュニティスクール促進事業	実施
					45.00	4	小中学校情報教育推進事業	実施
	3					5	小中学校英語教育支援事業	実施
						6	小中学校業務改善加速事業	実施
	基本政策間連携						7	心の教育事業

施策の体系	名称	小中学校の学習環境の充実	主管課	学校教育課				
	詳細	児童生徒が安心して学習できるような学習環境を整え、学校運営に支障が無いよう施設整備を行います。また、第1次茅野市小中学校管理計画に基づき、学校施設の建替、リノベーション等を計画的に進めます。						
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1	建替・リノベーション実施校数の増	建替又はリノベーションが完成した学校数(校)	0.00	0.00	1	小中学校施設管理事業	実施
					3.00	2	小中学校施設整備事業	実施
	2	学校トイレの洋式化率の増	第一次茅野市小中学校管理計画に基づく学校トイレの洋式化率(%)	36.30	50.00	3	永明小中学校建設事業	実施
					50.00	4		
	3					5		
						6		
	基本政策間連携							

施策の柱3	名称		主管課					
	詳細							
	まちづくりの目標指標	指標の説明(単位)	計画策定時	2022年度目標値	2027年度目標値	柱を構成する主要事務事業	区分	
	1					1		
						2		
	2					3		
						4		
	3					5		
						6		
	基本政策間連携							

施策等名称	学校教育の充実	体系番号	0201010103
		主管課	学校教育課

## 2 指標等の推移と変動要因

体系区分	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
指標No.		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
施策	児童生徒の学校に対する満足度	87.00	85.00	86.00	91.00	89.00	89.30
		95.00	89.47	90.53	95.79	93.68	94.00
変動要因等	2018年度	小中一貫教育を推進する中で、学校、家庭及び地域が一体となったコミュニティスクールを中核とした学校運営に取り組んでいる。今後も茅野市教育の特色を活かし、子どもたちの発達課題に基づき、共通の授業感に立った学びの推進が必要。					
	2019年度	小中一貫による特色ある茅野市教育の推進や、道徳、生徒指導、いじめ撲滅、不登校対応といった心の教育を推進していく中で、児童・生徒の学校や学級における自己有用感が高まり満足度の向上に繋がっている。					
	2020年度	小中一貫による茅野市教育の推進や、いじめ撲滅、不登校対応、コロナ禍でのカウンセリング対応といった心の教育の推進により、児童・生徒の学校や学級における自己有用感が高まっている。またICT教育や英語活動の充実が満足度の向上に繋がっている。					
	2021年度	いじめ撲滅、不登校対応、カウンセリング対応といった心の教育の推進を行ったが、長引くコロナ禍の影響もあり、児童・生徒の学校や学級における自己有用感は微減となった。しかし、ICT教育や英語活動の充実が満足度の向上に繋がっていると考える。					
	2022年度	いじめ撲滅、不登校対応、カウンセリング対応といった心の教育の推進していく中で児童・生徒の学校や学級における自己有用感が高まり満足度の向上に繋がっている。また、ICT教育や英語活動の充実も満足度の向上につながっている。					
施策	教職員の月平均時間外勤務時間の減	57.03	55.34	45.00	38.35	40.55	40.00
		45.00	122.98	100.00	85.22	90.11	88.89
変動要因等	2018年度	スクールサポートスタッフの雇用、教職員の意識改革、会議の効率化等を図り減少傾向にあるが、目標達成ためにはさらなる工夫が必要					
	2019年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用、業務改善委員会による働き方改革の取組みにより時間外勤務時間が減少した。					
	2020年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用等働き方改革の推進による減少。また、コロナ禍による学校の臨時休業や会議等の縮小も影響した。					
	2021年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用等働き方改革の推進を図っているが、コロナ対応等が微増となった要因であると考え。					
	2022年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用等働き方改革の推進に減少より時間外勤務時間が減少した。					
施策	学校トイレの洋式化率の増	31.50	36.90	41.00	44.40	52.60	52.60
		50.00	73.80	82.00	88.80	105.20	105.20
変動要因等	2018年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2019年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2020年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2021年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2022年度	変動なし(計画完了)					
柱1	児童生徒の学校に対する満足度	87.00	85.00	86.00	91.00	89.00	89.30
		95.00	89.47	90.53	95.79	93.68	94.00
変動要因等	2018年度	小中一貫教育を推進する中で、学校、家庭及び地域が一体となったコミュニティスクールを中核とした学校運営に取り組んでいる。今後も茅野市教育の特色を活かし、子どもたちの発達課題に基づき、共通の授業感に立った学びの推進が必要。					
	2019年度	小中一貫による特色ある茅野市教育の推進や、道徳、生徒指導、いじめ撲滅、不登校対応といった心の教育を推進していく中で、児童・生徒の学校や学級における帰属感が高まり満足度の向上に繋がっている。					
	2020年度	小中一貫による茅野市教育の推進や、いじめ撲滅、不登校対応、コロナ禍でのカウンセリング対応といった心の教育の推進により、児童・生徒の学校や学級における帰属感が高まっている。またICT教育や英語活動の充実が満足度の向上に繋がっている。					
	2021年度	いじめ撲滅、不登校対応、カウンセリング対応といった心の教育の推進を行ったが、長引くコロナ禍の影響もあり、児童・生徒の学校や学級における自己有用感は微減となった。しかし、ICT教育や英語活動の充実が満足度の向上に繋がっていると考える。					
	2022年度	いじめ撲滅、不登校対応、カウンセリング対応といった心の教育の推進していく中で児童・生徒の学校や学級における自己有用感が高まり満足度の向上に繋がっている。また、ICT教育や英語活動の充実も満足度の向上につながっている。					
柱1	教職員の月平均時間外勤務時間の減	57.03	55.34	45.00	38.35	40.55	40.00
		45.00	122.98	100.00	85.22	90.11	88.89
変動要因等	2018年度	スクールサポートスタッフの雇用、教職員の意識改革、会議の効率化等を図り減少傾向にあるが、目標達成ためにはさらなる工夫が必要					
	2019年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用、業務改善委員会による働き方改革の取組みにより時間外勤務時間が減少した。					
	2020年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用等働き方改革の推進による減少。また、コロナ禍による学校の臨時休業や会議等の縮小も影響した。					
	2021年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用等働き方改革の推進を図っているが、コロナ対応等が微増となった要因であると考え。					
	2022年度	育ちあいちのによる相談窓口の一元化、スクールサポートスタッフ、部活動指導員の任用等働き方改革の推進に減少より時間外勤務時間が減少した。					
柱2	建替・リノベーション実施校数の増	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
変動要因等	2018年度	永明小学校永明中学校の建替工事を令和3年度から実施予定、その後宮川小学校のリノベーション工事を実施していく。					
	2019年度	変動なし					
	2020年度	変動なし					
	2021年度	変動なし					
	2022年度	変動なし					

施策等名称	学校教育の充実	体系番号	0201010103
		所管課	学校教育課

No.	成果指標名	計画策定時	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
		中間目標値	実績値 / 達成率(実績値÷目標値)				
柱2 2	学校トイレの洋式化率の増	31.50	36.90	41.00	44.40	52.60	52.60
		50.00	73.80	82.00	88.80	105.20	105.20
変動要因等	2018年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2019年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2020年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2021年度	第1次小中学校管理計画のトイレ洋式化工事の年次計画に基づき、学校ごとに順次工事を実施したための増					
	2022年度	変動なし(計画完了)					

施策等名称	学校教育の充実	体系番号	0201010103			
		主管課	学校教育課			

3 評価・改革改善

(単位:円)

項目		2018年 (前年度比)	2019年 (前年度比)	2020年 (前年度比)	2021年 (前年度比)	2022年 (前年度比)
投資額	事業費(円)	395,698,652	1,308,447,705	439,180,909	771,056,565	1,566,675,788
	うち一財(円)	274,478,626	1,084,606,705	294,194,247	476,267,756	232,175,788
	増減理由 (一般財源 前年度比 ±10%以上 の場合に 記載)		小中学校の空調設備設置工事を行ったための増		永明小中学校建替え事業について、工事着手に伴う増	永明小中学校建替え事業における校舎建設工事を行ったため。
進捗評価		おおむね順調	おおむね順調	おおむね順調	おおむね順調	順調
総合評価	主な取組内容や成果	施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度、教職員の時間外勤務の減とも成果が表れている。施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度、教職員の時間外勤務の減とも成果が表れている。施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度の向上、教職員の時間外勤務の減少とも成果が表れている。施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	施策の柱1については、各事務事業の実施により、教職員の時間外勤務はコロナ対応を踏まえての微増であり、児童生徒の満足度も微減となったが、ICT教育等も含めた全体の中ではしっかり成果が表れている。施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。	(R4・総括評価共通) 施策の柱1については、各事務事業の実施により、児童生徒の満足度の増、教職員の時間外勤務の減など成果が表れている。施策の柱2については、第1次小中学校管理計画に基づき順次実施している状況。
	課題	子どもを取り巻く環境の変化により、様々な支援が必要な児童生徒が増えていて、指標の数字に表れない部分の対応が必要になってきている。それに合わせて教職員の負担も増えている。	子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化し、児童生徒のみならず家庭を含めた支援、専門的家の関わりが必要なケースが増加している。それに伴い教職員の負担も増加していることから、育ちあいちの核とした包括的な支援体制をより充実させていく必要がある。	子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化し、児童生徒のみならず家庭を含めた支援、専門的家の関わりが必要なケースが増加している。それに伴い教職員の負担も増加していることから、育ちあいちの核とした包括的な支援体制をより充実させていく必要がある。	子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化し、児童生徒のみならず家庭を含めた支援、専門的家の関わりが必要なケースが増加している。それに伴い教職員の負担も増加していることから、育ちあいちの核とした包括的な支援体制をより充実させていく必要がある。	(R4・総括評価共通) 子どもを取り巻く環境が複雑化・多様化している。児童生徒やその家庭を含めた支援や専門的な立場からの関わりが必要となるケースが増加しているため、「育ちあいちの」を核とした包括的な支援体制を充実させていく必要がある。学校規模の検討により、学校施設の整備方針を作成していく必要がある。
改革・改善	改革・改善内容	社会で子どもを育てていく必要が大きくなってきていることから、コミュニティスクールの充実が不可欠である。	学校を核として、地域住民が学校活動の支援や課題解決に向けた取組を行うコミュニティスクールの充実が重要となる。学校と地域をつなぐコーディネーターの確保が不可欠である。	学校を核として、地域住民が学校活動の支援や課題解決に向けた取組を行うコミュニティスクールの充実が重要となる。学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの人材確保と学校運営委員会の充実を図る必要がある。	学校を核として、地域住民が学校活動の支援や課題解決に向けた取組を行うコミュニティスクールの充実が重要となる。学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの人材確保と学校運営委員会の充実を図る必要がある。施設については、令和4年度に後期5か年の設備等整備計画を作成予定。	学校を核として、地域住民が学校活動の支援や課題解決に向けた取組を行うコミュニティスクールの充実が重要となる。また、学校と地域をつなぐ地域コーディネーターの人材確保と学校運営委員会の充実を図る必要がある。学校の整備方針については、行財政改革の方針に合せ、整備内容、整備順序を再検討していく。
	重点化する施策の柱 重点 事務事業	2	2	2	2	2
		1	1	1	1	1
理由	夏の猛暑による熱中症の予防のため、空調設備の設置が緊急の課題となっているため。	永明小中の建設については、周辺道路と併せて令和2度に計画を決定する必要があることから、重点事業として事業を進める。	永明小中の建設については、令和3度から工事着手を行い、事業費が大きくなることから、重点事業として事業を進める。	永明小中の建設については、令和3度から校舎建設工事着手を行い、令和4年度は社会体育館に着手していくことから、重点事業として事業を進める。	永明小中の建設については、校舎建設、社会体育館建設に続いてアリーナ建設、グラウンド整備等工事予定があるため、重点事業として事業を進める。	